



1. 第13回アジア・スマートシティ会議へのご参加ありがとうございました！

横浜市は、2024年10月23日～24日にパシフィコ横浜で第13回アジア・スマートシティ会議（ASCC）を開催しました。イベントには、海外46か国から2,200人以上が集まり、「脱炭素化」をテーマに各種セミナーやディスカッション、企業・団体による展示ブースでの活動紹介などが行われました。ASCCは、世界銀行、アジア開発銀行、経済協力開発機構（OECD）、国際協力機構（JICA）、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）、シティネットなどの国際機関の協力のもと、アジアの各都市、各国政府、学術機関、民間企業の代表者が一堂に会し、経済成長と良好な都市環境を両立する持続可能な都市づくりの実現に向け毎年開催される国際会議であり、今年は「GX（グリーントランスフォーメーション）」、「最先端技術」、「都市課題解決」、「イノベーション」をキーテーマに18のセッションが開催されました。また、テーマに沿った約50の企業・団体による展示ブースが設置され、企業向けの脱炭素ソリューションにかかるビジネス交流が活発に行われました。シティネットに関連したセミナーとしては、「SDGsと気候変動対策のシナジー」をテーマとして、シティネットのネットワークを活用したSDGsや気候変動対策の取り組みに係る知見を共有する「シティネットSDGs分科会セミナー」が開催されました。2日間のイベントの概要と収録映像は、後日、横浜市のウェブサイトで公開予定です。現地参加が叶わなかった方は、ぜひご覧ください。

2. シティネットSDGs分科会セミナー2024

ASCC最終日には、シティネットメンバーや国際機関が登壇し、シティネットSDGs分科会セミナーが開催されました。今年のセミナーは、SDGsのローカリゼーションと気候変動対策の相乗効果に焦点を当て、シティネットのネットワークの強化、アジア太平洋地域におけるSDGsと気候変動対策の取り組みの更なる推進を目的として行われました。シティネットメンバーやESCAP、IGES（公益財団法人地球環境戦略研究機関）などの国際機関の代表者を含め、25を超える都市や組織から約120人が参加しました。セミナーの収録映像は後日公開予定です。



セミナーハイライト

SDGs分科会セミナーでは、はじめに横浜市の佐藤広毅副市長が冒頭挨拶を行い、続いてクアラルンプール市のMaimunah Mohd Sharif市長からビデオメッセージが届けられました。その後、ESCAPの持続可能都市開発部門で都市の気候変動対策とSDGsローカリゼーションの主任を務めるOmar Siddique氏が、SDGsのローカリゼーションと各都市・地域レベルでの気候変動対策の相乗効果やコベネフィット効果に関する基調講演を行いました。Omar氏は、SDGsのローカリゼーションと各都市・地域レベルでの気候変動対策の相乗効果を強化することで、気候変動対策やSDGsの取り組みをさらに推進することの重要性について強調しました。これらの相乗効果を通じて、地域の気候変動対策が複数のSDG目標の達成にも貢献することが期待されます。



横浜市佐藤副市長による
開会挨拶



クアラルンプール市長
による動画メッセージ



ESCAPのOmar Siddique氏による
基調講演

基調講演に続いて、シティネットSDGs分科会の議長都市である横浜市、ソウル特別市、クアラルンプール市の3都市から、それぞれ三枝忠裕氏、Arang Ma氏、Mohd Azlan Shah bin Abdullah氏が、各都市におけるSDGsと気候変動対策の取り組みについてプレゼンテーションを行いました。横浜市の三枝氏は、SDGsの達成に向けて多様な主体をつなぎ、地域課題の解決に導く「ヨコハマSDGsデザインセンター」の取り組みを紹介しました。同センターは、横浜市と民間事業者が共同で設立・運営する組織で、横浜市内外の多様な主体のニーズとシーズをつなぎ合わせ、横浜市の環境・経済・社会問題を解決することを目指して活動を展開しています。ソウル特別市のArang氏は、同市が直面している都市課題として1) 少子高齢化、2) デジ

タルとグリーンへの転換、3) 気候危機への対応を挙げ、各課題に対処するための政策として「Mom and Dad Happiness Project」、「Smart Safety City Seoul」、「Waterside Attractive City」などの取り組みについて紹介しました。クアラルンプール市のAzlan氏は、同市におけるSDGsに関する取り組みとロードマップ、更に「気候変動対策計画2050」と呼ばれる都市マスタープランを紹介し、モビリティとインフラ、グリーン適応、エネルギー効率、スマート廃棄物管理、災害管理の5つの戦略に分類された15のアクションプランについて説明しました。

続けて、SDG分科会の副議長であるAIILSG (All India Institute of Local Self Government) とHELP-O (Human & Environment Links Progressive Organization) は、ビデオ登壇にて各団体のSDGsと気候変動への取り組みを紹介しました。AIILSGのNeha氏は、シティネット プラス・アーツ クリエイティブパートナーシップセンターと協働した防災プログラムをはじめ、シティネットとの最新のSDGsに関する協働事例やシティネットの「都市型SDGsナレッジ プラットフォーム」に貢献した事例について紹介しました。HELP-OのNadeeka Amarasinghe氏は、HELP-Oが近年重点的に取り組んでいる3つの分野である、1) スリランカの地方自治に対する市民参加の促進、2) ゴール市をプラスチックフリーの都市にする活動、3) クリーンな都市・青い海と緑の都市プログラムの実施について紹介しました。



横浜市国際局長三枝氏による
プレゼンテーション



ソウル特別市企画・調整部局評価マネージャー
Arang氏によるプレゼンテーション



クアラルンプール市都市交通局次長Azlan Shah氏の
パネルディスカッションでの発言の様子

プレゼンテーションセッションの後、IGESの藤野純一氏をモデレーターに迎え、シティネット事務局、ESCAP、ソウル特別市、クアラルンプール市、横浜市、バギオ市の6名のパネリストを交えたパネルディスカッションセッションが行われました。藤野氏は、SDGsのローカリゼーションと気候変動対策の相乗効果、そしてアジア太平洋地域におけるこれらの取り組みのさらなる促進に関してパネリストに質問を投げかけて、活発な議論が展開されました。パネリストは、それぞれの地域での取り組みを踏まえた知見を共有し、SDGsと気候変動対策の相乗効果を推進するうえで、地方自治体の強力なリーダーシップが極めて重要であると指摘しました。また、民間事業者や若年層世代、他の自治体といった各ステークホルダーの積極的な関与も重要である点も挙げられました。さらに、シティネットが「都市型SDGsナレッジプラットフォーム」の設置を通じて推進している相互学習と知識共有の取り組みも、都市間の効果的な連携を促進するために不可欠であることが強調されました。これらの議論は、シティネットネットワークを活用したSDGsと気候変動対策の相乗効果を推進するにあたって、大変実りのあるものとなりました。

最後に、シティネット横浜プロジェクトオフィス (CYO) の栗田るみ所長より閉会の挨拶があり、その後、記念撮影会が行われました。



モデレーターとパネリストによるパネルディスカッション



CYO代表栗田氏による閉会の辞

※セミナーでのプレゼンテーション資料は、2024年12月末日まで以下のリンクからダウンロードできます。

https://drive.google.com/drive/folders/108qXcPKNIif_hal7yLFTVbMjArnwzJmP

3. CITYNET会員間のネットワーキングイベント

ASCC前日の10月22日には、横浜市国際協力センターの共同会議室にて、シティネット会員向けのネットワーキングイベントが開催されました。シティネット事務局のChris DiGennaro氏がファシリテーターを務め、参加者はリラックスした雰囲気の中、軽食を楽しみながら親交を深められる場となりました。横浜市国際局の富岡典夫部長より開会の挨拶で始まり、参加者への温かい歓迎の挨拶が述べられました。その後、アイスブレイクセッションでは、Chris氏がSDGsに関連するクイズ大会を実施し、参加者は4チームに分かれて早押し形式でのチーム対抗戦を行いました。チーム間の競争で大いに盛り上がり、活気あふれるイベントとなりました。アイスブレイクの後は、シティネット横浜プロジェクトオフィス（CYO）の山腰章子氏が、シティネットメンバーを対象として実施した2024年のSDGsアンケート調査結果について、前年の調査結果との比較を交えて発表しました。続いて、サンタローザ市のErmin Lucino氏、バギオ市のDonna R. Tabangin氏が、それぞれの都市のSDGsや気候変動に対する取り組みや、現在実施中のVLR



シティネット事務局のChris氏によるファシリテーションの様子



CYOによるSDGsアンケート調査結果の発表

（Voluntary Local Review：自発的自治体レビュー）について紹介しました。

このイベントでは、25名のシティネット会員と関係者が集まり、参加者間の交流や連絡先の交換が行われました。参加者はバギオ市とサンタローザ市のVLRの取り組みにも強い関心を示し、活発な意見交換が行われました。最後に、シティネットの特別顧問であるMary Jane Ortega氏が閉会の挨拶を行い、シティネットネットワークの活用を通じたさらなる連携強化を呼びかけ、イベントは締めくくられました。



アイスブレイクでのSDGsクイズ



バギオ市によるプレゼンテーション



サンタローザ市によるプレゼンテーション

※本イベントでのプレゼンテーション資料は、2024年12月末日まで以下のリンクからダウンロードできます。

https://drive.google.com/drive/folders/1027a49EUwd5fMd73sVQysDrOEEor9yrm?usp=drive_link

また、ASCC期間中の10月23日と24日には、ASCCの昼食会（ネットワーキングランチ）が開催され、シティネット会員にとっても有意義な交流の機会となりました。特に24日のネットワーキングランチでは、Mary Jane氏が参加者全員に激励のスピーチを行い、国際協力で活躍するキーパーソンをつなぐ上でシティネットが果たしてきた役割について、シティネットの歴史と共に参加者に共有しました。



ネットワーキングイベントでの集合写真



シティネット特別顧問のMary Jane氏によるスピーチ

4. メタバース空間で次世代SDGsアクションプロジェクトの取組紹介

ASCCイベントでは、日本とモンゴルの生徒によるSDG関連の取り組みを紹介するバーチャルリアリティ（VR）上の展示室が設置され、シティネットの次世代活動の成果が紹介されました。訪れた参加者は、VRゴーグルやスマートフォンなどのデバイスを通じて、VRルームに入室し、モンゴルのウランバートル第23学校からのビデオメッセージやSDGsに関する9つの環境絵日記、みなとみらい本町小学校の校歌「いろとりどりの未来」の映像などの展示作品を楽しみました。これらの作品を通じて、来場者は両校の生徒がSDGsに関連する課題をどのように考え、取り組んでいるかを知り、感動されている様子が印象的でした。

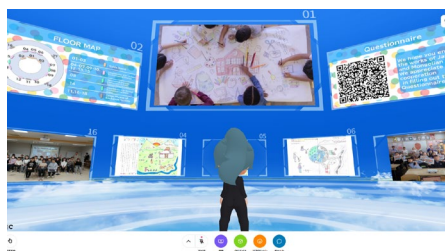


VRルームは、2024年12月末日まで以下のリンクから閲覧可能です。パソコンやスマートフォンからぜひ覗いてみてください！

<https://door.ntt/zMmBBk8/asc%E4%BC%9A%E8%AD%B0%E6%B5%B7%E5%A4%96%E7%89%88>

シティネット横浜プロジェクトオフィスは、2022年からみなとみらい本町小学校とモンゴルのウランバートル第23学校との交流活動を支援し、次世代の育成活動に取り組んでいます。このプログラムは、生徒がSDGsを日常生活の一部として捉え、SDGsの実践への取り組みを促進することを目的としています。2023年にはオンライン交流会を3回開催し、生徒同士が互いの地域の環境問題について共有し、国際的な環境問題に対する理解を深めました。また、昨年の第12回ASCCでは、横浜市の生徒がSDGs達成への思いを込めて自ら制作した校歌「いろとりどりの未来」を発表しました。さらに、横浜市SDGs未来都市・環境絵日記展にウランバートル第23学校の生徒も作品を出展したり、ウランバートルの生徒たちが出展作品や環境問題への考えを伝えるビデオメッセージを配信したりして交流を深めました。今年のVRルームでは、それらの

メッセージや校歌などの作品も展示されました。



VR展示室



ウランバートル市の生徒による作品



横浜市の生徒による作品

両校の生徒は昨年同様にSDGsの交流活動を今後も続けていく予定です。今年特に注目すべきは、より効率的で高度なコミュニケーションを促進するためのVR技術が導入されたことです。今後、両校の生徒がVR技術を使ってどのように交流を深め、新たな成果を生み出すのか楽しみです。

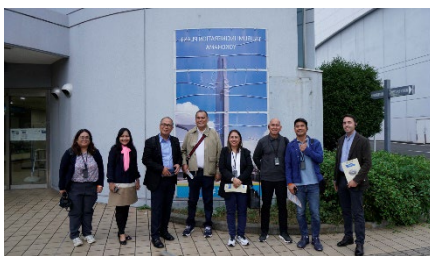
CYOニュースレターでは、この活動を引き続きフォローし、最新の情報を発信していきます。また、来年初頭にはシティネット会員都市からの新しい学校との交流プログラムも実施する予定です。ぜひご期待ください。

5. 視察プログラム

10月22日には、ASCCのプレイベントとして現地視察プログラムが開催され、招聘都市や団体から73人が参加しました。現地視察プログラムは、AからEの5つのコースが用意され、各ツアーでは、横浜市内の施設等の見学を通じて、横浜の脱炭素化の取り組みを学ぶことができました。Aコースの参加者は横浜市役所を訪れ、横浜のグリーンエネルギーの取り組みを視察しました。Bコースでは、汚泥処理プラントを訪見し、横浜の水循環の高度な技術が紹介されました。Cコースでは鶴見区廃棄物焼却プラントと地域協力を通じたCCU（二酸化炭素利用）技術のパイロットプロジェクトを見学しました。Dコースの参加者は、みなとみらい21地区を巡り、PPP（官民パートナーシップ）スキームによる脱炭素化モデルについて知見を深めました。Eコースでは、カーボンニュートラル社会の実現に向けた民間部門の役割に焦点を当て、脱炭素先行地域としてのみなとみらい21地区の取り組みを学びました。



オリエンテーション



鶴見区廃棄物焼却工場見学Cコース



みなとみらい21地区を巡るDコース



CITYNET Yokohama Project Office
supports the SDGs.